

---

報告者名	梅屋 潔	被調査者生年	1947年(男)
調査者名	梅屋 潔	被調査者属性	気仙沼市議
補助調査者	なし		

---

### はじめに

調査者の担当地域は気仙沼市鹿折地区であるが、正月行事に関する近隣地域との比較の観点から、この度唐桑町中井地区についても調査を行った。

### 話者家

話者家(屋号中井妻)は代々漁をして暮らしてきた家で、先々代までは漁師であった。先代にあたる話者の父は公務員になり、話者自身も郵便局で務めた。話者の母は昭和20年に、鹿折地区の生家から話者家に嫁入りした。昭和32年より商店経営を手掛けるようになり、話者の母が店番を務めた。昭和37年からは郵便局が開局し、そちらでも働き始めた。現在商店を運営しているのは話者の妻である。

現在の自宅は昭和40年に改築したもので、その翌年落成した。

### 話者家のお年とり

御幣束、五色幣、切り子などは唐桑半島の先端に位置する御崎神社より配布される。御崎神社宮司は、12月初頭から区内内を歩き、これらを配布していく。一軒一軒ではなく隣組単位で配布される。この後に、都合のつく日にススハライを済ませておく。12月28日になると、神棚に飾る松の枝を切って用意しておく。2012年の松は例年より小さいものようである。28日は神棚に供えるための餅をつく日でもある。

正月飾りは12月30日の早朝より始まる。当日朝には飾り付けに用いる竹を近隣の竹林から切ってくる。この竹は御幣束を挟み込んだり、アミを吊るしたりするのに用いられ、各々の用途に合わせて切って使う。

しめ縄は7房のものを2つ、5房を1つ、3房のものを3つ用意する。この他に、タンガコと呼ばれる丸いしめ縄を9つ用意する。7房のしめ縄は、神棚の中央と玄関に飾られる。5房のしめ縄は氏神に飾られる。3房のも



写真1 切り出しておいた松など飾り付けの準備をする。



写真2 網の方向など一年ぶりに思い出しながら飾り付けを行う。

のは水瓶や臼、竈に飾りつけるものである。タンガコは納屋に4つ、トイレに1つ、離れに1つ、年の神に1つ、通りを隔てた別棟の商店に2つ飾りつける。

28日についた餅は神棚に13列並べる。その他に、仏壇（オミダマサマ）に2列、商店に2列、氏神に1列、白山サマに1列並べる。

御膳は年の神に2膳、天照皇大神宮に2膳、ヤクジガミ（薬師如来）とオホゾガミ（疱瘡神か）に1膳、計6膳を供える。薬師如来とオホゾガミに供える御膳からは魚を抜く。3日、5日、7日、11日、14日のコマツノトシトリの日、15日の朝に御膳を供える。

#### 正月飾りを下す

どんと祭は14日の晩に行われるが、話者家では15日の朝まで神棚に御膳を供え、その日まで正月飾りを飾り続けるため、14日のどんと祭にはその年の正月飾りを出さない。どんと祭で燃やすのはその前年の正月飾りで、毎年15日に飾りを下すと氏神の祠の前に保管しておく。松のみは2月5日まで飾り続け、その日になってから下し他の正月飾りと同様に氏神前に保管しておく。



写真3 神棚に松を飾り付ける。



写真4 飾り付けが終了した神棚。